

野生動物に対する道路横断施設 マニュアル（案）の作成



環境研究部 緑化生態研究室 室長 松江 正彦 研究官 園田 陽一

(キーワード) 道路横断施設、生物多様性、ロードキル

1. 野生動物に対する道路横断施設の必要性

道路の建設は、そこに存在している生態系に対して直接的また間接的な影響を与える。道路の建設にともなう直接的な影響としては、自動車による野生動物の交通事故¹⁾や、野生動物の生息環境の消失・分断や生態系の質の低下などが挙げられる。また、ロードキルは野生動物への影響のみならず、運転者等の人身事故につながる事例も報告されている。このようななか、野生動物に対する道路横断施設は、分断化した野生動物の生息地の影響を緩和するための有効な代償手段であるとともに、ロードキルによる人身事故を防ぐためにも有効な手段といえる。

2. 道路横断施設の設置マニュアル（案）

道路環境影響評価の技術手法²⁾において、野生動物の道路横断施設の設置の際には「科学的知見や類似事例」を参考に環境保全措置を検討することとしている。

国土技術政策総合研究所環境研究部緑化生態研究室では、平成19年度から平成21年度にかけて野生動物の生息地分断対策事例の整理、モニタリング調査による道路横断施設の効果検証を実施してきた。そこで、3年間で道路横断施設における野生動物の利用実態調査を行い、科学的知見に基づいた道路横断施設の設置マニュアル(案)を作成した。本マニュアルは、既存調査から得られた知見及びその他の既往の知見を基に、道路横断施設の有効性を総合的に検証し、道路横断施設の設置・維持管理に関する作業プロセスを整理したものである。マニュアルの構成案について図-1に示した。

本マニュアルの構成は、新設、既設路線における野生哺乳類を対象とした道路横断施設及び付帯

施設の計画・設計から維持・管理を検討する上での基本的な考え方や参考事例等を取りまとめるとともに、道路横断施設における事後調査手法として赤外線センサーカメラを用いたモニタリング手法について詳細に取りまとめた。

本マニュアル(案)は、国総研資料として公表することにより、地方整備局や地方自治体の道路事業担当の方々に活用していただき、さらに意見をいただきながら、より現場で活用しやすいものとしていく予定である。

【参考文献】

- 1) 藤原宣夫・金子弥生・飯塚康雄、2004、野生中・小哺乳類のための生態的回廊の整備手法に関する研究、国土技術政策総合研究所緑化生態研究室報告書、147、55-118
- 2) 道路環境研究所、2007、道路環境影響評価の技術手法第3巻、423p.



図-1 道路横断施設設置計画のフロー